

授業科目 成人言語障害学Ⅰ

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	言語
渡 辺 真 澄		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 成人脳損傷者のリハビリテーションにおけるチームアプローチに専門職として参加するため、成人に生じる言語・コミュニケーション障害（失語および右半球損傷・認知症・頭部外傷などによるコミュニケーション障害）の言語症状の特徴や鑑別の方法を理解し、他の専門職との連携のあり方について認識を深める。					
【学習目標】 1. 失語症学の生い立ちについて説明し、その発展の概略について述べることができる 2. 失語の発生のメカニズムについて、原因疾患と病巣を中心に整理して述べるができる 3. 失語の言語症状を説明するとともに、他の症状と鑑別することができる 4. 失語の分類名を列挙しその特徴を述べるとともに、典型例については他から鑑別して同定できる 5. 失語と鑑別すべきコミュニケーション障害を列挙し、主な鑑別点を説明できる 6. 失語のリハビリテーションの流れについて、チームアプローチの観点から説明できる 7. 失語の予後についてその概略を説明できる					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	失語症学の歴史/定義			1	講義、VTR
2	症状・原因疾患・病巣			2	講義、VTR
3	鑑別			3, 5	講義
4	評価の流れ・情報の収集・鑑別診断検査			6	講義
5	評価と診断の基本理念			6	講義
6	ロゴジェンモデル			2	講義
7	評価の実際- 1			3	講義
8	失語症候群- 1			4	講義、VTR
9	失語症候群- 2			4	講義、VTR
10	評価の実際- 2			5	講義、VTR
11	掘り下げ検査- 1			3	講義
12	掘り下げ検査- 2			3	講義
13	掘り下げ検査- 3			3	講義、VTR
14	予後、失語症者とのコミュニケーション・障害受容と心理・社会的問題			1-7	講義
15	まとめ			1-7	講義
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		失語症		石川祐治 編著	建帛社 2000・2,400円
		失語症言語治療の基礎		紺野加奈江	診断と治療社 2001・3,500円
参考書		よくわかる失語症と高次脳機能障害		鹿島晴雄、種村純 編集	永井書店 2003・9,000円・その他、適宜紹介する
その他の資料		プリント			
【評価方法】			【履修上の留意点】		
出席状況と小テスト、期末試験により評価する。					